



遣新羅使(作者不詳)
『万葉集』 卷十五 三六二二

我が命を
長門の島の
小松原
幾代を経ても
神さびわたる



けんしらざし
天平8(西暦736)年、遣新羅使
おおいしみのまろきょう
大石養磨卿の一行が長門の島で
詠んだ歌。題詞には、「安芸の国の
長門の島にして磯辺に船泊りして
作る歌五首」とあります。

制作 安田女子大学 現代ビジネス学部 公共経営学科 (折本・山田研究室)



KURASHI-KURESHI-HIROSHIMA
KAROUTO

令和4(2022)年 信順寺

START



AM8:00

今日はいつもより早起きをしてみんなでドライブ。
JR広島駅でレンタカーを借りていざ出発!



鹿老渡のMAP



鹿老渡



目的地へ

癒しを求めて
5人
女子旅

ちよつと
オトナの...



AM12:00

素敵なカフェを発見!
名物「おたからフリット」を堪能したら心も身体も大満足。



AM11:00

宮島の厳島神社管絃祭で使われた御座船を鑑賞。倉橋島で建造され奉納されたもの。



広島県最南端の島

万葉の里 倉橋へ

真っ赤な音戸大橋を渡った
その先で絶景とあたたかな
人々に会いました。

魅力スゴイ

おたから



この看板が目印

音戸大橋



AM9:00

朱赤のアーチ橋・音戸大橋を渡って倉橋島へ。
今日は快晴で眺めも最高。



AM10:00

桂浜に無事到着! 海に向かって立つ大きな鳥居がお出迎え。夏は海水浴場としてにぎわう桂浜をみんなで散歩。



桂浜神社の鳥居は「白御影石」

古代の海のロマンに触れる
風待ち・潮待ちの港
鹿老渡

瀬戸内海芸予諸島のひとつで倉橋島の最南端に位置する鹿老渡地区。1961(昭和36)年、音戸大橋の建設により倉橋島は呉市本土と陸続きになりました。2005(平成17)年に倉橋町は呉市と合併。鹿老渡全域が瀬戸内海国立公園に指定されています。

02

寺社巡りで運氣UP!



鹿老渡には大小あわせて10の寺社があります。それぞれ航路の安全や豊漁・豊作などを願って建立されました。
なかでも、享保14年(1731年)に建てられた伊勢神社の祭神は天照大御神(あまてらすおおみかみ)で、社殿には諸々の災いからのがれる力をもつという伝説(『古事記』より)がある「桃」が彫られています。境内に入ると不思議と心が穏やかになるパワースポットで、はるか昔に思いを馳せてみては?!

「宝島」と呼ばれる理由——くらはしの歴史・お宝巡り

01

古墳がある!



鹿老渡には古墳時代に作られた古墳が少なくとも5つ確認されています。
なかでも岩屋古墳は古墳時代後期(6世紀前半)の円墳で墓室は横穴式石室で作られており、非常に珍しいものなんだとか!

岩屋古墳(呉市HPより転載)▶



鹿老渡にある寺社

- ・お稲荷
- ・金刀比羅宮
- ・金神大明神
- ・観音堂
- ・信順寺
- ・住吉神社
- ・稲荷神社



伊勢神社



荒神社



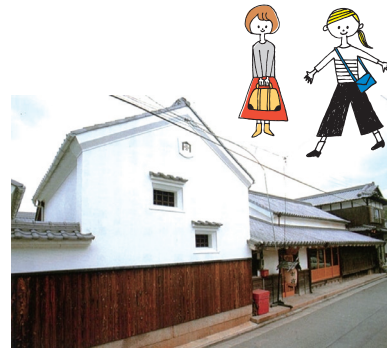
胡子神社



03 レトロな雰囲気



江戸時代に入り、瀬戸内海では北前船などによる広域交易が始まりました。廻船は山陽陸地側の“地乗り”航路と瀬戸内海中央部の“沖乗り”航路を利用しました。廻船は帆で追い風をはらみ、潮の流れを利用して航行するため、“風待ち・潮待ちの港”が整備されていきました。鹿老渡もその港町として整備され、今も碁盤目状の町割りと古風な雰囲気が残っています。その一角に残る宮林家は、日向杉を扱っていた商家で、日向藩主もしばしば宿にしたといわれている江戸時代末期の建物だそうです。



宮林家住宅
(かつて伊能忠敬の測量チームや朝鮮通信使も宿泊)

04 マンホール蓋



旧安芸郡倉橋町(現・呉市倉橋町)時代に作られた遣唐使船をデザインしたマンホール蓋があります。広島市内にも良好な都市景観の形成や下水道のイメージアップを目的とした「デザインマンホール蓋」がありますが、こちらはレトロな感じです。見つけると何だか嬉しくなりますね。



遣唐使船をデザインしたマンホール蓋。是非お散歩しながら探してみてください！

05 自然&絶景



鹿老渡からの夕日

寄り道して帰路へ



旧倉橋町立鹿老渡小学校

PM3:00

閉校となった元小学校では石橋会長を中心に月2回のふれあいサロンが開かれていました♪



ナウマン象の骨もあるゾウ



穏やかな瀬戸内を眺めていたら日頃のストレスも解消されそう。ゆったり安全運転で帰ります。

PM6:30



詳しくは

倉橋歴史民俗資料館

呉市倉橋町440 Tel (0823) 53-2010

長門の造船歴史館

呉市倉橋町171-7 Tel (0823) 53-0016

宝島くらはしまづくり協議会

呉市倉橋町431 Tel (0823) 53-1111

鹿老渡の人々



1
ISHIBASHI
KATSUMI

長年、鹿老渡に住む人、鹿老渡に移住してきた人



2
YAMAGUCHI
HIROHIDE



3
YAMASHITA
TAKAO

個性溢れる鹿老渡の人々の暮らしを紹介します



4
IYOSHI
IZUMI



5
DOI MOTOTSUGU
& SATSUKI



石橋 克己さん

出身: 鹿老渡
 仕事: 【前】郵便局長、保護司
 仕事: 【今】鹿老渡自治会 会長
 青少年補導推進協議会の会長
 倉橋の海と暮らしを守る会の会長
 趣味: 書道



鹿老渡の会長を務めている石橋さん。
 誰もが引き込まれる素敵な笑顔の持ち主。
 そんな石橋さんの人間性に迫ります。
 そして、鹿老渡で生まれ育ち、鹿老渡愛は76年。
 そんな石橋さんから見た「鹿老渡」とは・・・

会長という仕事について

■きっかけ

石橋さんは、もともと人と話すことが大好き。生まれ育った鹿老渡で多くの方と関わりたいと思ったことから会長に。

■大変だったこと

人が好きで、鹿老渡が好きで会長になったため、大変だと思ったことは一度もないそう。

■やりがい

地域の色々な人と話せること、そして、話す中で地域の状況を把握できること。他にも、地域の方が協力してくれる時もやりがいを感じる瞬間。外から来た人や地域の人に気持ち良くなって欲しいという思いで始めた清掃活動も今ではその思いが浸透し、地域の方も一緒に手伝ってくれるように。



大切にしていること

「自ら行動すること」

地域の人から信頼や協力を得るには、自分がまずは行動で示すことが必要。挨拶も自分から声をかけ積極的にしている。

「誠心誠意伝えること」

直接会って、目を見て話すことが大切。直接会うことが難しい時には、気持ちが少しでも伝わるように、メールではなく、手書きの手紙を今でも必ず書いているそう。



鹿老渡の今後について

目指すは、「美しい鹿老渡＋高齢者が安心して住みやすい地域」
 そのためにも、自治会、女性会、市の職員の方などみんなが連携して、鹿老渡のことを考えていくべきである。これから色々な所で地域の話し合いの場を設けて地域をよくしていきたい。



県外から移住された
土井 さつきさん

住民の方から石橋会長へ

石橋さんは、いつもニコニコしていて、フレンドリーな方。
 車に乗っていたら手を振ってくれたりします。移住した後もよく気にかけてくださり、感謝しています。

鹿老渡の魅力

海がきれいなところ。子供の時はよく海遊びをしていたそう。のんびりしたい人には鹿老渡の地域はぴったり。そして何より、住んでいる方々の人柄がよく、親切である点は最大の魅力。誰でも気持ちよく受け入れてくれる人ばかりであるため、初めて鹿老渡に来る人も心配はいらないという。

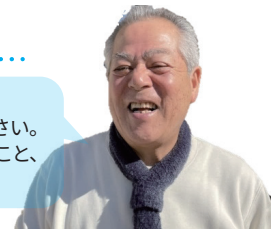


鹿老渡に住み続けた理由

若い時は、鹿老渡の外に出てみたいという憧れや興味はあった。しかし、鹿老渡の穏やかな雰囲気や鹿老渡に住む人が大好きで住み続けることを決意。

メッセージ

鹿老渡はとても素敵な場所です。いつでもぜひ足を運んでみてください。困ったこと、不安なこと、気になること、どんなことでも相談にのりますよ。





山口 博英さん

出身:生まれも育ちも音戸
仕事:倉橋郵便局長
趣味:釣り
カブでツーリング



倉橋郵便局長の山口さん。郵便局長としてだけではなく、幼少期から過ごしてきた地元を愛する住民として、地域を支える存在。そんな地元を愛する山口さんにたくさんお話を聞いてみました。

鹿老渡の魅力・好きなところ

海がとても澄んでいて綺麗なところ。碁盤の目のように道が整備されていて町の景観が綺麗に維持されているところ。人が少ないからこそ、住民ひとりひとりの町を守ろうとする意識が強いことが町の景観が綺麗に維持されている理由のひとつ。住民同士の付き合いが深いところも魅力のひとつ。地域の方々が畑で育てた野菜をお裾分けしてもらったり、石橋会長の奥様からはお漬物もいただいたりするそう。また、いただいた恩義をもらうだけではなく、何かの形で返すことでより深い関係性を築いていけているそう。



お気に入りの場所

ツーリングでは海沿いを走るのが休日の過ごし方。海で育ったから、山よりも海。今はしまなみ海道など島から島へ渡れるようになって、場所によって海の絵が全く違うのがとても魅力的。倉橋島の夕日はとても美しくおすすめ。今は時間に追われていないため、一人でツーリングに出かけて休みたい時に休む、自分のペースで走るのがマイブーム。地域の美味しいものを地域の方にきいて、隠れ場的なところを聞くのが楽しみのひとつだそう。

倉橋郵便局長として大切にしていること

仕事だけのつながりにしないこと。郵便事業はインターネットが普及する前は生活のインフラにかかせない、なくてはならない存在。しかし、スマートフォンの時代となり、近年は年賀状文化の衰退やメール便の普及により、郵便局の利用者が減少。そういった中でも、郵便局を必要としている人はいるため、仕事の上だけの関係ではなく、朝掃除をする際には挨拶をしてコミュニケーションを取り、関係性を築いていっているそう。倉橋で働く人間として自分自身も倉橋の魅力をもっと知っていきたいし、地域の自治会長さんたちと一緒に地域を盛り上げていきたいと意気込んでおられる。



倉橋郵便局

山口さんの頑張れる源

仕事や対人関係などで嫌なことがあっても家族の存在があるから何でも頑張れる。家庭があるから仕事を頑張れる。息子さんが初任給で買ってくれた指輪が宝物。今の一番の楽しみはお孫さんに会うこと。



地域の人とのつながり

毎年夏には倉橋町で開催される「アクアスロンくらはし」にボランティアでランの先導をバイクで行っているそう。日本全国から選手が集まり、広島大学の医学生がボランティアで参加。普段若い世代の人と話す機会がないためとても貴重な時間。そういった縁から地域のことを知ってもらえるし、またそこからたくさんの人に倉橋のことを発信してってもらって訪れる人が増えていって欲しいとおっしゃっている。

ここから見える景色は最高じゃねえ



石橋会長からのメッセージ

元々部下だったから息子みたいな存在。気さくで、なんでも相談し合える関係性。





山下 孝夫さん

鹿老渡の魅力

“そりゃあのんびりした生活じゃろう、都会と違ってがちゃがちゃしてない”と山下さんは言う。出たときに海に出たり、孫が来た時には遊んだり、親戚でもある石橋会長とは魚や野菜をおすわけしながら暮らしている。1.2mの大きな魚が獲れた時には5軒で分けて食べたそう。

出身: 鹿老渡
仕事: 【前】消防士
【今】漁師
趣味: 海に出ること/ドラマ鑑賞



鹿老渡にUターンしたわけ

鹿老渡で生まれ育った山下さん。そんな山下さんの前職は消防士。消防士として広島市で働き43歳で親の面倒を見るために仕事を辞め、鹿老渡にUターン。広島市内で生活を経験した山下さんは“やっぱり田舎の暮らしは楽でいい”と語る。



とっておきの栈橋

山下さんの手作り栈橋。栈橋の下には大きな網があり、そこでクロダイをはじめとするたくさんの魚を手塩にかけて育てている。

水清ければ魚棲まず

山下さんが鹿老渡に帰ってこられた頃から、釣れる魚は減少している。魚が減ったのは海がきれいになりすぎたから“水清ければ魚棲まず”そのくらい鹿老渡の海はきれい。



石橋会長からのメッセージ

彼はいとこの婿さんで日ごろから親しく付き合っており、とても気さくで遠慮のない人。大変勉強家で、すごく熱心で、いつ・どこで・何が釣れたか日々ノートにつけているとのこと。真面目で一本気な性格。



山下さんの鹿老渡に対する想い

若い人が増えると嬉しい。鹿老渡の人口の高齢化に伴い祭りをはじめとする様々な行事がしにくくなっている。代々続いてきた神輿とだんじりの喧嘩祭りも、だんじりを担ぐ若者がおらず昨年から神輿のみに縮小。子どもの頃からの行事がなくなるのは寂しい。土井さん夫婦 (File.05) のように手入れすれば住むことのできる空き家はたくさんある。

お店をはじめて35年。 鹿老渡の人々の食を支える



井吉 いずみさん

鹿老渡内の飲食店「いずみ」を経営する井吉いずみさん。「いずみ」は令和4年で創業35周年を迎え、今は地域の人たちが多く集まる憩いの場となっている。地域の方との繋がりも強く、ご飯を作って地元の方に配ることもあるそう。



鹿老渡で飲食店をはじめたきっかけ

前職は車関係のお仕事をされており、親が経営する民宿を手伝うために鹿老渡へ U ターン。その後、「地元で新しい仕事をしたい」「地元の人喜んでくれるお店にしたい」と思い、飲食店「いずみ」を開業。元々は喫茶店が入っており、以前のオーナーから貸してもらったそう。それまで他の人からの申し出もあったが、オーナーは「地元の人に貸したい」という思いがあり、いずみさんに貸すことを決意。

お店のおすすめのメニュー

「お好み焼き」が一番人気のメニュー。お店の鉄板を使った、目の前で焼くあつあつのお好み焼きは絶品。リーズナブルな価格で提供しており、創業当時から変わらない値段と味でお客さんに提供している。お好み焼きを食べた後には、締めとして「珈琲」をだしており、このお店ならではのこだわり。



仕事をしていく上でのやりがい

お客さんからの「ありがとう」の感謝の言葉がやりがい。毎日お店に来てくれるお客さんも多く、常連さんが集まってお店で喋ることも多い。年中無休で営業しており、疲れたり、ストレスが溜まったりした時でも、お客さんの顔を見てお話をすることで日々の疲れを癒しているそう。お客さんの相談を聞いたり、世間話をしたりと、お客さんとのコミュニケーションを取ることもやりがいに繋がっている。また、一人で暮らす方にご飯を作って配ることもあるそう。食べてもらうことが好きという気持ちから始め、今も続けている。このように、鹿老渡に住む方の食を支える存在として、地域の皆さんから愛され続けていることが「いずみ」の最大の魅力。



常連さんと談笑するいずみさん

鹿老渡の魅力・好きなところ

海が澄んでいて、街の景観が綺麗なところが魅力。また、台風が来た際にも大きな被害があったことが無く、安心して暮らすことができる点も魅力のひとつ。来てくれるお客さんも親切な方が多く、住んでいる方も魅力に感じている。来店していたお客さんから、「釣り場が近くにあり、いつでも魚釣りができるのも魅力のひとつ」とお話しいただいた。



店の前に広がる夕風の海

石橋会長への メッセージ

昔から「いずみちゃん」と呼んでくれて、とても可愛がってもらっています。会長として精力的に務めている姿をみて「よくやってる!」と感心しています。これからも鹿老渡の会長として今後の鹿老渡をよろしく願います!

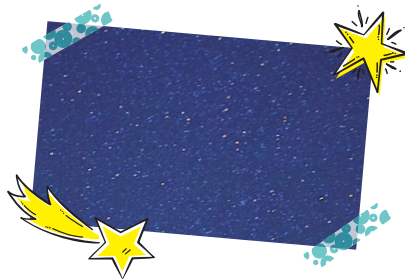




土井 基次さん さつきさん



京都府から移住された土井さんご夫妻。お二人には移住を決めてから芽生えた、新たな思いがありました。
 お二人の新たな思いとは？
 そして、鹿老渡の魅力とは？



出身：京都府
 仕事：(基次さん)半導体製造装置の製造
 (さつきさん)歯科助手
 趣味：(基次さん)バイク
 (さつきさん)観葉植物の栽培
 美味しいものを食べに行くこと

犬との暮らし

土井さん自慢の可愛い 4 匹の犬。犬種が珍しいこともあり、犬と散歩していると近所の方に話しかけられることも。アスファルトの道だと夏は暑くなってしまっ、犬に負担…。しかし、鹿老渡は土の道も多いため、犬の散歩に最適。また、海沿いの道は最高の散歩コース！夏には、犬と一緒に海で泳ぐのもおすすめ。



鹿老渡の魅力・好きなところ

きれいな夜空が魅力。ビルの明かりなどによって作り出される都会の夜景とはまた違い、明かりや邪魔をする建物が少ないからこそ鹿老渡ではきれいな夜空が見られる。また、鹿老渡は静かで時間の流れがゆっくり。静かすぎて、窓を閉めずに寝てしまったことに気付かなかったことも。さらに、「ただいま」「お帰り」と言い合うほど近い関係性である住民の方も魅力のひとつ。

移住の決め手

「老後にのんびり暮らしたい」という思いが移住のきっかけ。釣りも海水浴もできる海の近くで、雪があまり降らないことが絶対条件だったそう。讃岐、高知、福山などの瀬戸内海周辺をまわった中でも、鹿老渡は条件がそろっており、雰囲気良かったため、普段は石橋を叩いて渡るタイプの基次さんが即決！！ちなみに、鹿老渡には下水処理場があってトイレが水洗式であることに驚いたそう。
 また、移住を決めてから「鹿老渡を活性化したい」と思ったお二人。活性化したいといっても、住民の方の思いが一番大切であるため、会長たちがやりたいという感じになれば、ぜひ協力したいとおっしゃっていた。



鹿老渡の魅力的な住民

親切な住民の方々も土井さんが移住を決めたきっかけのひとつ。初めて家を見に来た時、お隣に魚を持って来られていた近所の奥様に遭遇！「ここ買うん？待っとるけえね」と話しかけてくださり、1 か月後に契約しに来た時に「家買ったよ」と報告。移住してきて分からないことがたくさんあった時も、すぐにお世話してくださったそう。
 また、さつきさんには 95 歳のお友達もいて、手紙交換をしたり、おかずを作ったら持って行ったりすることも。



石橋会長から見た土井さんは…

鹿老渡に強い思いがあるのが伝わってきます。こういう人が来てくれたことはとても嬉しいです。いい人だからもっと話してみたいです！

土井さんからのメッセージ

他の地域の移住した方のお話をテレビで見ると、移住者同士のお付き合いがあって、私もそんな交流がしたいと思いました。移住者同士の情報交換もできていいのでは？私達と移住仲間になりましょう！！